

科学研究のよりよき発展と
倫理の確立を目指して

閉会 挨拶

代表幹事
阿部博之

1

とくに若手研究者の育成について

——後期課程学生などの質の確保——

(1) 自由で独創的な雰囲気の研究室を

注1: 研究は失敗(と間違い)の積み重ね

科学的批判 >> 倫理的批判

注2: 画期的な結果が出たときは、徹底的に議論を

とくに再現性

注3: 若手研究者は、教授の研究の分担者でよい

のであろうか? (筆者と特別推進研究)

注4: 個人指導のメリット、デメリット(難しさ)

2

(2) 研究指導(研究の作法、論文作成)を含む対話に
十分な時間を

大学はエフォートシステムの整備を

注1: 学内のマネジメントや学外の会議も大切であるが、
研究/研究指導とは両立しがたい場合が少なくない

注2: 利益相反・責務相反マネジメントの必要性
(研究者ないし大学の責任で)

* 産学だけではない。兼職や研究費の審査においても

注3: 大学は教育機関であることを忘れてはいけない

他の研究機関とは違う

3

(3) 教授の研究水準の向上

注1: 高度な専門家としての指導教授の職業倫理
併せて専門家集団としての多様性、開放性

注2: 研究指導者には、研究者としての訓練と認定が
必要 (研究の作法)

* 教授のアマチュア化の是非？

4

(4) 助言者としての学者の役割

理性の公的、私的使用(エマヌエル・カント)

エビデンスに基づく平易で一貫した説明(独立性)

(5) 学会、科学者コミュニティ

日本的権威主義・功利主義は、しばしば健全なる
学術研究から離反する。(多様性を大切に)

5

(6) 大学

大学の本来の役割は？

* 大学の責任とオートノミー

- 欧米の優れた大学の伝統文化を再度咀嚼する
“果実のみの重視”からの脱却(エルウィン・ベルツ)
- 研究を職業とすることのすばらしさを若者に伝える

後期課程学生の就職に当たって、型式(大学名など)
ではなく、個人の力(研究力、失敗の克服、…)をより
重視して欲しい

6